学習指導のある視点

全国学力・学習状況調査の結果が公表されて久しい。
教育に携わる仕事をしていると、「昨年より向上した」とか「ここが相変わらず苦手だな」とか結果に一喜一憂している状況である。
先日、町内の方との会話の中で、「石川県の小学生や中学生は勉強がんばっているんですよ」というと、「へーえ、そうなの、知らんかった」と返ってきた。はじめは驚いたが、時間がたつにつれ、安堵した。
中教審的に言うと、地域が子どもの学力にも関心を持って取り組めるように「地域に開かれた教育課程」を作り上げるわけだが、皆さん様々な生き方をしている中、誰もが、教育に関心があるわけでもない。我が町内会の状況が普通なのかもしれない。
さて、そうはいうものの、義務教育は学習指導要領が示す最低基準を児童生徒に習得させるなくてはならない。
仕事柄、大学の先生と話をする機会があり、学力を向上させるちょっとしたポイントを聞くことができる。印象に残っていることをいくつか書いてみる。

〇小学校低学年の指導
　学力調査が一般的に行われるようになり、経年比較ができ、その対応に取り組むことができるようになった。小学６年生や中学３年生の結果にも小学４年生の結果が（必ずではないが）影響を残すことがある。したがって、小学校低学年の指導は重要となる。いくつかポイントをあげる。
・小学校入学後のしつけと基礎、つまり、小学１年生時の生活のしかた、学び方は重要である。
・返事、挙手し起立して話すこと
・あたりまえをしっかりできるとぶれない

〇中学生の指導
　アンケート調査結果によると、小学生は学校が楽しく、家庭学習も充実していることに対し、中学生は小学生の結果を維持できていない。経験から言うと、中学生は、発達段階や経験等が関わり、小学生のようには行かないことがある。学習内容も多く難しくなり、小学校時代は授業の学びだけで好成績を収めていた児童（生徒）も中学校では小学校のようには行かなく、きつい言葉だが挫折を経験することがある。部活動や習い事もあり、家庭学習を含めた学習の取組・結果に個人差が出る可能性がある。このことが中学生の結果に関わると考えられる。
この中学生の学びに関しいくつかのポイントをあげる。
・生徒が自分で考える時間がなく、課題提示→いきなり話し合い、がある。
・表現させていない→聞、書、話をしっかりと！
　問題解決型の学び→取り組むためには、学級経営をしっかり行わなくてはならない
・対策として、
　　ステップを示す　　書く→書いたら挙手、発表→これを何サイクルか回す
　　多くの先生が外部の助言により改善する
　↓
　子供（生徒）に変化があったことを見いだすことからスタートする
　時には、グループワーク、ペアワークを入れてはいけないこともあろう
・勉強を苦手とする生徒をいかに<u>響かす</u>ことができるか
　<u>響く</u>とテストですぐに成果が出る。これを経験させる。

※中学校が立ち直るきっかけ
　　英…声を出す
　　音…歌う
　　理…おもしろい

いつの時代にも共通することですね。役に立つことありますか？　お役に立つことができたら幸いです。